

図書館ビジョン（骨子案）

○ はじめに

- 1 策定の背景と目的
図書館をめぐる動向（法改正、他都市、老朽化、サービス不十分）
中期（子育てしたいまち・・・まちづくり）
役割を再定義し、今後の方向性を示すこと
- 2 「図書館ビジョン」の位置づけと本市の関連施策
財政ビジョン、行運指針、教育振興基本計画、中期計画、読書計画、
10～20年の長期的視点も持ち（5章のスケジュールも見据えて）

○ 横浜市・図書館をめぐる現状と課題

- 1 横浜市の概況・取組
- 2 横浜市立図書館の概況
- 3 他国や他都市における社会教育や図書館の動向
- 4 横浜市立図書館の課題（狭隘化も課題に加える。横浜市の図書館と、近年の図書館の面積比較。蔵書数に対する面積。土地の事情により状況異なるだろう。国内の動向を参考として入れつつ、横浜市と東京の図書館とで比較？）

○ 横浜市立図書館のあり方の方向性（図書館の役割の再定義）

- 1 **基本理念（＝横浜市立図書館として目指すべき図書館像）**
→誰にとってのどんな図書館でありたいのか、あるべきなのか
図書館が提供する価値。大切にする価値
- 2 **基本方針（図書館、移動図書館、取次所）（＝基本理念の実現に向けた取組の方向性）**
こどもへのサービス充実子育て支援
安心して使える場づくり
本を活かした子育て支援
子どもを連れていきたい場所へ

集まりたくなる場
創造的な営みを創発する場
サードプレイスとしてすべての人に開かれた場

まち全体で市民を支える図書館（取次、移動図書館、外部リソースの有機的なネットワーク）
各拠点（中央と地域図書館、移動図書館、図書取次）の役割の整理
まちづくりへの貢献、回遊性、集客効果に留意した配置の検討
築年数と施設状況を考慮した再整備の在り方
オンラインサービスの拡充

図書館以外の機能と連携し、利便性向上

図書館は、最も身近で子どもから大人まで誰でも入れる公共施設

図書館が提供できる価値をわかりやすく発信

コミュニティ形成・再生の拠点

様々な公的機関、多様なパートナーと連携して市民や地域の課題解決に貢献

アウトリーチにより、身近な場所で豊かな学びを

本・読書を核とし、多様な情報等へのアクセス、生涯学習の機会を提供する施設としての役割を果たす

市民の主体的な学びを支える幅広くバランスの良い蔵書（本市の蔵書の評価・分析、他都市比較）

中央・地域館それぞれの特性を踏まえたコレクション

つなぐ・つながる場所（情報、過去・未来、都市の記憶、地域、世代）

地域資料等の収集

アーカイブ機能（必要な収容能力）

図書館は、最も身近で子どもから大人まで誰でも入れる公共施設（再掲）

マーケティング

まちの魅力向上やにぎわいづくりに貢献

市民の知的な活動や課題解決を支える拠点として、地域の人々に愛される施設

財政的持続可能性

人材育成（変わり続ける図書館を支える人材の活用と育成）

再エネ

物流増大への対応（現体制の中での効率化。他都市事例から見る物流手法のパターンとメリデメ）

IC タグ・自動貸出機の導入

デジタル対応（A I の活用等）

本市の図書館の蓄積（司書・蔵書）、目指す姿やコンセプトを踏まえた最適な運営手法を適宜選択

○ 取組の方向性（各論）

1 ハード面

（1）サービス提供体制整備（図書館、サービス拠点、移動図書館）

<めざす方向性>

- ・財政的な制約等がある中で、身近な場所で図書へのアクセスを求める切実なニーズにどのように答えていくか。（抜本的な改善は困難だとしても）ニーズの高いサービスについては利便性向上策を柔軟に検討する。

<図書館の再整備の考え方>

<図書館外のタッチポイントについて>

<移動図書館>⇒面的なサービス提供体制に組み込むか、ソフトサービス充実のツールと考えるか？

<リニューアルのイメージのパターン分け>

※駅前再開発、公共施設の建て替え合築、空きテナント入居、
単館充実型（駐車場拡充・既存館のリフォーム（本棚・トイレ・子供スペース））

2 ソフト面

デジタル技術の活用（IC タグ等）、蔵書の充実（選書・コレクション）、営業時間、電子書籍（意義、位置づけ）、レファレンスの充実、イベントの企画充実、アウトリーチ、郵送、企業（書店等）との連携、図書館ファンクラブ（ファンベース）、HP・SNS・アプリの活用充実（広報周知、オンラインイベント読み聞かせ）、地域館ごとの特色あるサービスの提供

地域館ごとの特色あるサービスの提供

3 行財政運営

管理・運営体制（指定管理・業務効率化）

- ・市立図書館の蓄積（司書・蔵書）・図書館全体での目指す姿や各館のコンセプトを踏まえ最適な管理運営手法を選択
- ・窓口業務委託はすでに一部で導入済み。司書の専門性を必要とする業務とその他の業務をさらに仕分けすることによる業務の効率化
- ・指定管理者制度導入後は、定期的に評価を行い、サービス水準の維持・向上を図る
- ・指定管理館においても、複合施設全体の管理運営方針に合わせてサービスを付加することを積極的に検討する

IC タグの導入

財源確保（雑誌カバー、広告、有料読書室）、クラファン、寄付、
物流（効率化の検討）

図書館行政・運営に関わる人材の育成

○ 基本理念の実現に向けて

○ 策定プロセス

ワークショップ、有識者意見、各種アンケート、パブコメ

○ 資料編